

新津会視察報告書

日 時 : 平成30年2月13日10時～11時半

視察先 : 株式会社日本ピット(大分市)

報告者

津久見市議会議員

井戸川 幸弘

平成30年2月20日

新津会視察報告書

1. 視察参加者

津久見市議会 新津会 代表 高野 至市議
井戸川 幸弘市議（報告書提出者・本人）

以上 2名

2. 視察日程

平成30年2月13日午前10時～12時

3. 視察内容

3-1 視察企業 株式会社日本ピット（所在地：大分市大字下郡3260番地の9）

（業務内容）建設用金属製品の製造販売

視察目的 公共施設などへの浸水対策（止水板設置など）について

3-2 取組状況

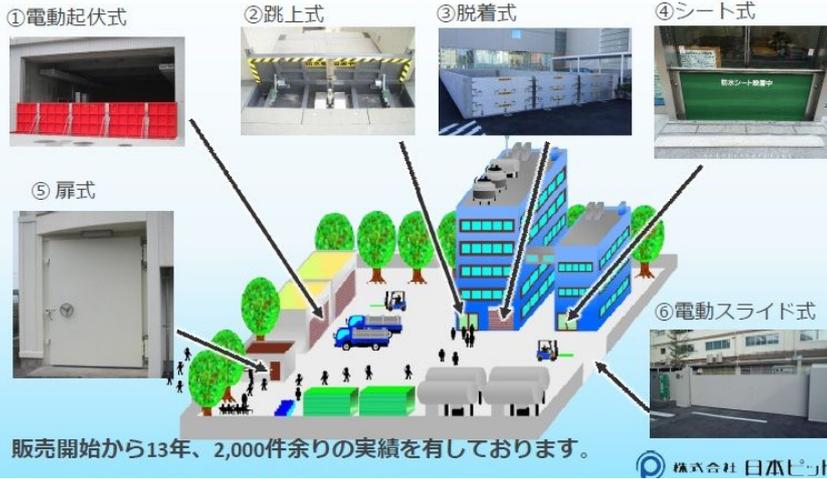
（現状分析） 日本ピットは建設用金属製品の製造販売を行っていましたが、2003年のJR博多駅周辺が浸水した豪雨災害以降、東京メトロなどの地下鉄の入り口などに設置する防水板の開発&販売を始め、浸水対策に関して実績のある会社との事です。

日本ピットでは既存の建物入口に柱を取り付け、豪雨時には防水板を固定し建物の浸水防止を図る防水板設置や、あらかじめ床板に防水板を埋め込み、豪雨時には床板が跳ね上がり浸水を防ぐ跳ね上げ式その他、津波にも耐えられる防水ドアの開発・販売を行っています。

大分県内では大分駅ビル新築工事や国東市の市庁舎建設工事、佐伯市役所の市庁舎建設工事の際に脱着式防水板の納入を行うなど、公共施設や民間での浸水対策に関する実績を積み重ねています。



日本ピットの防水板の種類・適用例



実際の水害時における稼働例



3-3 日本ピットとのヒヤリング

- ・既存の建物などへの浸水対策では脱着式防水板の設置事例が一番多いとの事。
- ・従来の防水板は重く取り付け用の柱を設置する工事が必要なので、自動ドアのアルミ枠などに直接取り付けられる低コストの簡易脱着式防水板の開発を進めている。
- ・止水板設置はあくまで浸水対策であり、津波などの流水対策となると強度などの設計を変更する必要がある。
- ・最近では防水板を製作するメーカーが増えてきたので、一般社団法人日本シャッター・ドア協会によって止水能力の基準が2019年に定められるとの事。
1時間に20L以下の流入量となる事が防水板の基準になるとの事です
- ・脱着式防水板は完全に水の浸入を防ぐものではなく、構造上隙間から僅かずつ水が浸入して来るが、土嚢を積んで止水する従来のやり方よりも少ない労力と短い時間で止水することができる。

< 日本ピット工場内での防水板などの見学 >



3-4 日本ピットとの質疑応答

Q：今回の津久見市における水害では、床下浸水した家庭でも床上浸水した家庭と同様に後片付けの労力を要したが、公的な被害救済は床上浸水が対象であり、床下浸水した家庭への公的支援は無かった。住宅の床下浸水に対しての防水板などは検討できないでしょうか？

A：防水板設置はこれまで主に公共施設や事業所・店舗などがほとんどだったので、個人住宅の床下浸水対策に関しては今後の課題として検討します。

Q：今回の津久見市における水害では、災害時の炊き出しにも応用できるとしていた第一中学校の共同調理場が被災し、給食再開まで長期間を要した。この施設にも防水板などの設置は可能でしょうか？

A：技術的には設置可能ですが、脱着式防水板を取り付ける方が良いのか別の方式を採用した方が良いかどうかの判断を現地確認する必要があります。

Q：最近津久見市内で防水板などを設置した事例はありますか？

A：2 / 16 に津久見市内の金融機関に防水板設置工事を施行予定です。

（3カ所に防水板を設置する工事で、概算150万円程の予算で設置するとの事）

3-5 総括

- ・ 昨年9月の台風18号では累計雨量が426ミリと言う過去に経験したことが無い豪雨だったため市内全域で大きな被害が発生した。しかし、ここ最近の傾向では全国的に1時間に50ミリを超過豪雨の発生件数が増加傾向にあるので、今後も同様の豪雨が津久見市内で発生する恐れがある。大分県で津久見川の大規模河川改修を計画しているが、計画完了は平成34年度末なので、その間のソフト面での浸水対策として防止板設置を検討した方が良いと思えた。
- ・ 津久見市では災害時の災害対策本部となる市役所や災害時の炊き出し拠点となる第一中学校の共同調理場も浸水したので災害時の重要拠点となる施設に対する防水板設置などの浸水対策を進めて行く必要があると感じました。
- ・ 津久見市においては市役所の移転なども検討されています。設計時にあらかじめ防水板設置などの浸水対策を盛り込むことが重要だと感じました。